

【声に出して読む】

俳句

杉田久女

一

春寒し 手まり匂へる 座敷かな

はるさむしてまりにおえる ざしきかな

花衣 ぬぐやまつわる 紐いろいろ

はなごろも ぬぐやまつわる ひもいろいろ

みづうみの 氷は解けて なほ寒し

みずうみの こおりはとけて なおさむし

月光に 魚跳ねかはす 石の上

げっこうに うおはねかわす いしのうえ

【声に出して読む】 俳句 杉田久女 二

紅梅や 障子の穴の 遠い山

こうばいや しょうじのあなの とおいやま

桜散る 松のこずえは 揺れざりき

さくらちる まつのこずえは ゆれざりき

かりがねの 影も寒さよ 渋紙戸

かりがねの かげもさむさよ しぶかみど

炎天や 花なき藤の 垣ばかり

えんてんや はななきふじの かきばかり

【声に出して読む】 俳句 杉田久女 三

草の花 子規と墓辺の 枯すすき

くさのはなしきとはかべの かれすすき

葛の花 踏みしだかれて 色あたらし

くずのはな ふみしだかれて いろあたらし

向日葵は 昼まぶしさに 燃えにけり

ひまわりは ひるまぶしさに もえにけり

コスモスや 揺れてすぐ影 うつりけり

こすもすや ゆれてすぐかげ うつりけり

【声に出して読む】

俳句

杉田久女

四

山桜 あしたの雨に 散りはてぬ

やまざくら あしたのあめに ちりはてぬ

花冷えの 竹を吹き出す 風あらし

はなびえの たけをふきだす かぜあらし

水仙や 曇れる雪の ただ中に

すいせんや くもれるゆきの ただなかに

夏川を 上りゆく子や 日傘さし

なつがわを のぼりゆくこや ひがささし

【声に出して読む】 俳句 杉田久女 五

旅人の 傘さし行けり 野分あと

たびびとの かささしゆけり のわきあと

露の世や 廃園の木の 影ばかり

つゆのよやは いえんのきの かげばかり

初雪の 紙の如くに 降りにけり

はつゆきの かみのごとくに ふりにけり

涼しさや 紙をはぐ音 人の声

すずしさや かみをはぐおと ひとのこえ